

# 福祉機器コンテスト2022

## 受賞作品紹介



機器開発部門



### TIRIのストロー補助具

(地独) 東京都立産業技術研究センター 酒井 日出子 氏



リユースを意識した子ども用ストロー補助具の開発を行いました。調査結果から抽出されたニーズを基に試作品を製作し、その後ストローで飲むことに対する支援経験のある作業療法士15名に試作品に関するインタビューを実施しました。最終的にストローがぐるぐる動くのを防ぐ「ストローサポート」、紙コップや市販のカップに持ち手が付けられ、またカップが倒れることを軽減する「カップホルダー」、ストローが口の奥に入り、喉を傷つけるリスクを軽減する「ストップストロー」の3種を開発しました。

### HeartyHID24 Mouse

パソボラ こころの♡かけはし・西九州大学 植田 友貴 氏



本作品は、PCやスマートフォンなどのマウス機能を1つのスイッチで操作可能にするICT機器です。接続方法は、PC等にUSBケーブルで接続し、HeartyHID24 Mouse本体に任意の操作スイッチを接続するだけです。USBで接続するだけで、デバイスの機種やOSを問わず同様の操作が可能で、制度の谷間により必要な支援が受けられない方でも安価に購入可能なワンスイッチで操作可能なマウス入力デバイスとして開発しました。



学生部門

### 究極のインクルーシブゲーム ~心拍を活用した運動会~

島根大学大学院 自然科学研究科 奥井 大貴 氏



本作品は、スイッチや視線入力の活用が難しい重度重複障害児(者)も遊ぶことができる、心拍を活用したインクルーシブゲームです。徒競走をモデルにしたもので心拍を感知するセンサーを指先に取り付け、パソコンソフトを起動することで遊べます。操作するキャラクターは心拍に応じて前に進むため、盛り上げる周囲の人達も勝つための一要素となります。そのため、重症児と支援者の関りを促すことができます。

### 点字ロール



日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 小林 芽生 氏

牛乳パックの切込みやエレベーターのボタンの点字など、近年視覚障碍の方の生活をより便利にするための製品が増えています。しかし、牛乳などの食品でいうと、それが何の食べ物なのかが分かって賞味期限や消費期限は視覚障碍者の方にはわかりません。また、薬の種類や飲み物の種類など、視覚障碍者の方にとって認識しにくいものがまだまだたくさんあります。そこで、わざわざ点字を打ち込んだり介助者の方に聞いたりしなくても、視覚障碍者の方自身で簡単に管理できる製品を考えました。



一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

<https://www.resja.or.jp/contest/>